

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101524		
法人名	有限会社 サン・リンク		
事業所名	グループホーム 陽恵苑		
所在地	島根県松江市馬潟町104番地I (電話) 0852-38-8128		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】(平成21年2月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤4人, 常勤換算16人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000)円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	520 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

(4) 利用者の概要(2月5日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	5名	要介護2	5名			
要介護3	6名	要介護4	2名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	70歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松江生協病院 松江市立病院 松江記念病院 入澤クリニック 後藤クリニック 松江赤十字病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には整備された広い庭があり地域の子どもたちが遊んだり、ボランティアによって植えられた野菜などがあり利用者も楽しみにしている。医師との連携がよくとられていて積極的に情報を提供し食事が食べられるようになった人もいる。男性職員が多く、同性介護にも気を配っている。職員も定着化しつつあり、利用者の情報や希望をプランに反映させながら課題に積極的に取り組み始めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題を継続して取り組む体制は十分ではなかったが、10月に管理者が交代し、「家族の意見の運営への反映」や「家族への報告」などできるところから意欲的に改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価票に記入し管理者がまとめた。取り組みの時間が少なく項目によってはわかりにくいところもあったが、職員は評価をすることで気づきやケアの中での留意点などを学んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの現状報告をしたり、行政から情報提供などがあり活発に意見交換をしている。参加者の声はすぐに運営に反映され、便りの発行など取り組まれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や運営推進会議で意見を聞いているが、今年度初めて行事の後で意見交換会を行った。家族から話し合いの場をもって欲しいなどの率直な意見が出され、取り組みが計画されている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月公民館で行われている「よらこい喫茶」に参加したり、囲碁や将棋のできる人に来てもらうなど、地域との連携に努めている。中学生の福祉体験学習も毎年継続して受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念をわかりやすい言葉でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に明示しており、職員は常に意識して理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で毎月行われる「よらこい喫茶」に参加したり、囲碁、将棋のできる人に来てもらうなど地域との交流が広がっている。中学生の福祉体験学習を毎年受け入れている。	○	さらに利用者が地域の中で豊かな生活を送るための取り組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価票に記入し管理者がまとめ評価を行った。職員は、項目によってはわかりにくい内容もあったが、取り組む中で課題やケアの留意点を感じとっている。	○	項目のねらいを全職員で確認しながら計画的に取り組むことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告、行政からの情報提供、提案などがあり活発に意見交換をしている。出された意見は運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者から情報を得たり運営に関して助言を得るなど、日常的に連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に様子を伝えたり、必要時には電話で連絡をとりあっている。便りが発行されない時期があったが、管理者が交代してからまた発行されるようになった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議のほかに、今年度初めて行事の後で家族との意見交換会を行った。便りの発行や話し合いの機会をもって欲しい、などの要望が出され、改善に取り組んでいる。	○	家族同士の交流、家族と職員との交流などに積極的に取り組み、家族、職員が力を合わせてよりよいホーム作りをしていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が多かったが最近では定着してきている。新人職員には実習を兼ねて先輩職員がマンツーマンで指導している。ユニット間で協力体制をとり日頃から馴染みの関係を築いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修が受けられるように配慮し、外部研修への参加も少しずつ増えている。内部研修も実施している。	○	サービスの質の向上を目指し、さらに職員の研修の場が増えることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員ともに地域の同業者との交流の機会があれば参加している。	○	ホームからも他の同業者に働きかけ、定期的な交流が行われることを望む。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学してもらったり会いに行っている。利用者への対応の仕方を職員に伝えたり、利用者同士がコミュニケーションを図れるような場面作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編物を教わったり、利用者のお礼の言葉や態度から職員が自分自身を振り返るなど、多くのことを利用者から学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動や目の動きなどのサインを見逃さないようにし、思いの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族との日頃の関わりの中で希望や情報を聞き、介護計画に具体的に盛り込んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月それぞれのユニット会議で利用者一人ひとりの変化を確認しあっている。定期的に家族にも参加してもらい意見を計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した時には積極的に医師と連携し利用者の生活を支えている。受診の付き添いや外出など、柔軟な対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係が築かれていて定期的に往診がある。往診前に利用者の情報をFAXで伝えスムーズに対応してもらっている。歯科受診も積極的に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに対して家族の要望は強いが、現時点ではホームとしての方針はまだ共有されていない。	○	利用者、家族、職員、医師、関係者と話し合いを重ね、最大限の努力ができるような体制作りと方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物の保管場所を決め、職員に対しては利用者の個人情報を口外しないよう守秘義務を徹底させている。排泄や入浴のケアは個別に対応し、同性介護もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重した支援を心がけ、食事に時間のかかる人にもゆっくりと関わっている。訴えや情報が少ない人への対応ができていない。	○	利用者の希望を引き出しながら、さらに利用者主体の生活の支援を検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力にあわせ食材の皮むきや下膳、食器洗いなど職員と一緒にしている。茶碗やコップなどの食器類は使い慣れたものを使用している。	○	グループホームの特性を考慮し、利用者と職員が和やかに同じテーブルを囲み一緒に食事をする機会も検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や対応職員など利用者の希望を聞きながら対応している。特殊浴槽も設置されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、お絵かき、踊りなどの趣味を楽しんだり、洗濯物たたみや食器洗い、おやつ作り、野菜の収穫、挨拶係りなど、利用者の力が活かせる場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや日光浴、個別な外出など、希望に沿った外出支援に努めている。	○	外出の機会の少ない利用者にも、恵まれた環境を活かし日常的に外気に触れる工夫を望みたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動を把握しながら鍵をかけない自由な生活の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い近隣の人にも参加を呼びかけている。	○	備蓄品の検討をお願いしたい。地域の人への呼びかけも継続して行い役割についても話し合っていたいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し利用者の状態を把握している。状態によっては医師と相談し高カロリーの飲用品を飲んでもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	書や塗り絵などの利用者の作品や写真を飾り優しい雰囲気作りをしている。炬燵やソファで自由に過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に電話を引いたり仏壇、ソファ、花や写真などを置き利用者や家族の思いで利用者に合わせた居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。